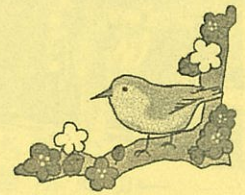


小島地区ふれあいセンターだより

令和7年1月 第415号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



1月の行事予定

※毎週月曜日及び1月1日（水）～3日（金）は休所日です。

開催日	行事名	
7日（火）	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
8日（水）	すこやか運動教室（生涯元気事業）	午前10時～12時
11日（土）	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
15日（水）	すこやか運動教室（生涯元気事業）	午前10時～12時
25日（土）	小島地区連合自治会連絡会議	

新年のごあいさつ

小島地区ふれあいセンター運営委員会

会長 金子 三智郎

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になり、有難うございました。

ふれあいセンター運営委員会で会長を勤めております金子でございます。

本年も、運営委員会、学習グループ、所長をはじめスタッフ一同、宜しくお願いいたします。

昨年はコロナの影響も遠のき、順調にふれあいセンターの活動を進めることができました。皆様に心よりお礼を申し上げたいと存じます。

昨年はサッカーファンにとって念願の、長崎スタジアムシティが10月14日に賑々しくオープンし、その後もショッピングタウン、ホテル共に活況を示しています。

年始には長崎ランタンフェスティバルが1月29日から2月12日まで開催されます。

この期間中に百万人を超える人出が予想されています。

さて、今年は「乙巳」（きのと・み）の年、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発達していく」年となる、とされています。さらに辛抱強さが試される年となり、すぐに結果が出なくても焦らず、粘り強く取組む姿勢が重要です。自分のペースを保ちながら着実に前進することで、最終的には望む結果に近づく事が出来ます。

今年が皆様に取りまして最良の年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさつと致します。

かるたとり (三)

平清盛から始まり、源頼朝により武士が政治の表舞台に登場し、従来の国家理念が塗り替わろうとする中で、悶々とした日々であった。

そのような背景の中で嘉禎五年 (一一三五) 宇都宮頼朝は、嵯峨野に建てた小倉山荘の障子色紙に古来の歌人の歌を揮毫して欲しいと定家に依頼し作成したものが「小倉山荘色紙和歌」で、のち「小倉百人一首」と呼ばれるようになった。

「百人一首」には、一番歌から百番歌までの順があるということは、余り知られていない。

この順番は、藤原定家が五五〇年間の日本の歩みをまとめて撰じたもので大きな意味がある。

一番は、天智天皇の歌である。

実は、万葉集には「詠み人知らず」の歌であるが、日本が大化の改新によって天皇中心の時代となり、天皇は民と共にある、日本は、そのような国であることを主張して、この歌を天智天皇の歌ということで一番歌に採用したものであろう。

二番歌は、持統天皇 (天智天皇の第二皇女、天武天皇の皇后) で、この歌も庶民と共に質素な暮らしを心掛けていくという意味が込められた歌である。

一番歌から五十二番歌までは、日本の国柄や気風などを、良く表した歌が見られる。

「昔と今の長崎発見」①
●長崎県庁舎跡地 (なーんか岬の崎)

・長崎を語る場合に全ての始まりの場所がここ、長崎県庁舎跡地です。長崎に居を構えていた「長崎氏」にとっては見向きもされなかった草ぼうぼうの場所、岬のはずれとも言える場所だったでしょう。ここに、日本初のキリシタン大名である大村純忠は、長崎開港の元亀元年 (1570) の翌年には町建てを行い、平戸町、大村町、島原町、横瀬浦町、外浦町、文知町の6か町を誕生させ、イエズス会の町造りが始まりました。

①イエズス会本部、サン・パウロ教会、サンタ・マリア教会

・長崎開港直後、岬の先端にイエズス会本部と共に、小さな聖堂、サン・パウロ教会が建てられました。

慶長6年 (1601) には長崎最大 (当時) のサンタ・マリア教会が建設されました。

慶長8年 (1603) には時計台が完成し、コレジオやセミナルオ、印刷所が置かれていましたが、慶長19年 (1614) の禁教令以後、破却されました。

・今この地は発掘調査が行なわれていますが、土中から花十文字瓦などが出土して17世紀初頭の物と考えられています。

②長崎奉行所西役所

・長崎奉行所は文禄元年 (1592) 本博多町に設置されました。その後、火災で焼失し、寛永10年 (1633)、外浦町の敷地に移り、ここに東・西の役所が設置されました。

寛文11年 (1671) に東役所は立山に移転し、立山役所とされ明治維新まで東・西体制は続きました。(立山役所現・長崎歴史文化博物館)

・長崎奉行は初代 寺沢志摩守広高 (文禄元年から慶長7年) (1592~1602) で、明治元年 (1868) まで127代126人を数え、役高は明和4年 (1767) 以降では1,000石、役料402俵です。しかし長崎奉行には、その他、八朔銀や脇荷の購入権があり、他の遠国奉行よりも遥かに多くの収入がありました。実収入は1万石とも2万石とも言われています。

叙爵は従五位下何々守と称しましたが、江戸城内では「諸太夫席・芙蓉の間詰め」の格式でした。

「秋の歴史探訪」講座について

十一月三十日 (土) に、小島地区ふれあいセンターの主催講座「秋の歴史探訪」を開催しました。

講師には、今回もテレビ等でお馴染みの山口広助さんをお迎えしました。

当日は、晴天に恵まれ、参加者二十七名及びスタッフは、崇福寺電停に集合して、崇福寺めぐりをしました。

参加者の皆さんは、講師の分かりやすい説明を興味深く聞きながら、和気藹々 (わきあいあい) と午後のひとときを楽しく過ごされました。



☆こしまおはなしランド&クリスマス会☆

十二月一日 (日) に、小島中学校区青少年育成協議会と小島地区ふれあいセンターの共催で、恒例の「こしまおはなしランド&クリスマス会」が開催されました。

小島中学校の生徒、小島小学校や愛宕小学校の児童、地域の園児や大人、約百二十名が参加されました。

田上おはなし会の皆さんによる絵本の読み聞かせやおしぼい、マジックショー、小島中学校の吹奏楽部の演奏、長崎ランタンまつりでおなじみの変面ショーなどがあり、最後にサンタクロースが登場して、プレゼントが配られ、子供達は楽しい時間を過ごしました。





〈新着図書のご案内〉

	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	大使とその妻 上	水村 美苗	新潮社
	大使とその妻 下	水村 美苗	新潮社
	僕たちの保存	長嶋 有	文藝春秋
	現代思想入門	千葉 雅也	講談社
	希望のステージ	南 杏子	講談社
	何がおかしい	佐藤 愛子	中央公論新社
	チョウセンアサガオの咲く夏	柚月 裕子	KADOKAWA
	捕り違い	芝村 涼也	双葉社
	浮かぶ瀬	岡本 さとる	祥伝社
	恋情の果て	北原 亜以子	光文社
	ごくつぶし	芝村 涼也	双葉社
	霧の中	芝村 涼也	双葉社
	一生に一度は見たい遺跡&絶景	—	宝島社
	日本のおむすび	菅本 香菜	ダイヤモンド社
	定年ランニング	中野 ジェームズ修一	徳間書店
	その時鐘は鳴り響く	宇佐美 まこと	東京創元社
	百年かぞえ歌	大崎 梢	KADOKAWA
	死仮面	横溝 正史	春陽堂書店
	分断されるアメリカ	前嶋 和弘	宝島社
	五葉のまつり	今村 翔吾	新潮社
	長崎聞役日記	山本博文	筑摩書房
児 童 図 書	見て、学んで、力がつく！こども日本地図 2025 年版	—	永岡書店
	いかだネコG氏 12 のぼうけん	山下 明生	あかね書房